

田中大庄次郎氏文書(3)概要

- 1: 文書群番号 095113
- 2: 文書群名 田中大庄次郎氏文書(3)
- 3: 出所 田中大庄次郎家
- 4: 家業・役職等 近世：神崎村役人
近代：小田村長／小田村会議員ほか
- 5: 地名 摂津国川辺郡神崎村／兵庫県川辺郡神崎村／川辺郡小田村神崎／尼崎市神崎／尼崎市神崎町ほか
- 6: 行政区分 幕府領／尼崎藩領／兵庫県第11区／下坂部組戸長役場／小田村／尼崎市
- 7: 歴史
田中家は、近世は神崎村の村役人であった。近代には、大庄次郎氏の養父田中正市氏が、大正～昭和初期にかけて神崎区長、小田村長・助役、小田村会議員、農会長など地域の要職を歴任し、小田村政に深く関わった。また正市氏は、明治15年(1882)に組織された小田村の文化人サークル「文明社」に結成当時から加わり、雑誌『筆の花』を発行するなど、文化面での活動も活発であった。大庄次郎氏も小田村青年団団長、須佐男神社氏子総代などの名誉職を勤める一方、晩年は尼崎郷土史研究会会長を務めるなど、郷土史家として幅広く活動した。
神崎は小田地区の大字で、市域東部、神崎川の西岸に位置する。古代から神崎津は西国と畿内を結ぶ水運のうえでも重要な港であった。
近世初期には幕府領、元和3年(1617)尼崎藩領となった。村高は「慶長十年撰津国絵図」に326.57石、別に28.666石、「元禄郷帳」に336.477石、別に28.666石、「天保郷帳」に344.109石、別に28.666石とある。また、天和・貞享年間(1681～1688)「尼崎領内高・家数・人数・船数等覚」には家数79軒・人数427人、別に8軒・32人、「天明八年御巡見様御通行御用之留帳」(1788年)には108軒・464人、別に22軒・81人とある。近世の神崎駅は大坂と尼崎を結ぶ中国街道の宿駅で、古代以来の神崎の渡しがあり、北には有馬道が分岐していた。西明寺井組に属し、氏神は須佐男神社(近世には牛頭天王社)、寺院は浄土真宗本願寺派瑛光寺・同宗同派西法寺。
明治22年(1889)以降は小田村、昭和11年(1936)以降は尼崎市の大字となった。
- 8: 伝来 平成6年(1994)10月17日に大庄次郎氏が96才で死去された後、子息の正三氏から、史料館で整理・保存して役立ててほしい旨の申し出があり、同8年2月24日に受け入れた。平成29年11月、田中正喜氏と寄託更新した。
- 9: 史料入手先 田中正三氏
- 10: 点数 694点(目録件数438件)
- 11: 年代 延宝8年(1680)～平成5年(1993)
- 12: 構造と内容 本文書群は田中大庄次郎氏文書(1)・田中大庄次郎氏文書(2)と本来一体をなすもので、①尼崎郷土史関係文書、②近世・近代の神崎村関係文書、③田中家の私的文書からなる。①は絵草子・書画・雑誌など、大庄次郎氏が尼崎郷土史研究会会員・同会長として郷土史研究を進められたなかで収集・作成された資史料。②は尼崎県から神崎村役人宛の書簡のほか、村持ち加島新田絵図・一筆限り地価取調書・山林原野明細書など、近世後期～明治初期の史料が多数を占める。③は、はがき・私信・古銭・遺言状・美術品パンフレットなどで、大庄次郎氏に関わるものが多い。
- 13: 関連史料 田中大庄次郎氏文書(1)(2)
- 14: 閲覧条件 原本

15:作成者

坂江 愛